

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月17日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100880
法人名	医療法人 天百合会
事業所名	グループホーム 優 嬉
所在地	鹿児島県鹿児島市広木2丁目48番1号 (電話) 099-284-7123
自己評価作成日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年4月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・「笑顔と優しさを大切に、あなたの声に耳を傾けます」をスローガンにスタッフ一丸になり、利用者様の主体的な生活に寄り添えるように日々心がけています。
- ・母体がクリニックなので、定期的にドクターが訪問診療に伺います。
- ・年間の行事はもちろんですが、個人レクリエーションに力を注いでいます。例えば、会話の中で「最近、墓参りに行ってないな…」と話されていたので一緒にお墓参りに行ったり、思い出深く故郷の海を話されるので一緒に海岸でのんびりと時間を過ごしたりと、利用者様一人ひとりに沿った個別のレクリエーションをおこなっています。
- ・毎月、日々の様子をコメントや写真を載せてお便りにしています。家族様へ相談や報告をこまめにおこなっています。
- ・毎月、法人内の音楽療法士にて音楽療法をおこなっています。昔のなじみ深い歌や、リズム感のある音楽で体を動かし、楽しんでいます。
- ・法人内での内部研修、外部研修を積極的にこなっています。
- ・地域に開かれたコミュニティーの場を目指しています。地域住民との繋がりもあり、消防避難訓練にも地域の方々の参加があります。

・ホームで地域社会の一員として自分らしく穏やか生活が送れるように、職員は希望や要望を常に聞き入れ、その人らしく生き生きと穏やかに生活できるように取り組んでいる。

・地域との交流が行なわれ、近隣を散歩したり、校区の文化祭や敬老会に出席したり、保育園に行ったり、近所の住民から花や野菜などの差し入れもある。

・母体の医療機関と24時間医療連携体制ができており、終末期や緊急時の対応が整っている。

・本人や家族の意向を聞いて、室内での趣味活動や菜園の手入れ、屋外に出てドライブ等で住み慣れた自宅付近に行ったり、遠方まで出かけるなど、その人に合わせた支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和をおこなっている。業務前に理念の確認をおこなうことで、その日の職員の意識・目標・サービスを統一してケアに生かしている。	事業所理念を朝礼時に唱和し、勉強会などを通して振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。職員で話し合い独自のスローガンも掲げ、信頼関係を重視することに、徹底して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様からの行事のお誘いも多く毎回参加させて頂いている。こちらの行事等にも地域の皆様の参加や協力体制がある。	校区の文化祭や敬老会など地域の各種行事に積極的に参加し、事業所の行事の夏祭りなどに多くの地域住民の参加がある。保育園児との交流、ボランティアの受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方にグループホームに関する相談があり、認知症に対する症状や関わり方等の説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を開催している。利用者様の様子や支援報告、事故報告等を議題に出し、より良いサービス向上に繋げられるように意見交換の場に生かしている。	会議は定期的で開催している。事業所の報告や利用者の様子・外部評価の報告などを行い、意見をもらい情報交換を行なっている。会議において、事業所前に室外灯を点灯することや事業所をコミュニティの場としての活用など、会議における具体的な提案を活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営等で不明な点は、状況に応じて市の担当者へ相談を行っている。又、市の介護相談員の受け入れもおこない、日頃の悩み等の相談ができています。運営推進会議では、長寿あんしん相談センターの職員からのアドバイスを頂いている。	市の担当者とは、書類申請時に利用者の相談や情報を交換してアドバイスをもらうなど、連携関係ができています。介護相談員も受け入れています。運営推進会議への出席で行政から情報収集したり、長寿あんしん相談センターとも連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に対しての勉強会を定期的実施し、職員間での意識の統一を図っている。身体拘束ゼロを目指し実践できている。	法人の身体拘束廃止委員会で、定期的な勉強会を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても日々確認している。昼間は玄関の施錠をせずに、自由に利用者は出入りできるようにしている。外出する利用者は、生活歴や習慣を把握して、声かけやさりげなく寄り添い支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しての勉強会を定期的実施している。身体的虐待はもちろんが、心理的・言葉による虐待がないように職員間で意識・注意をし合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護・成年後見制度の勉強会を実施している。現在、制度を利用されている方はいないが、今後も定期的に勉強会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際は、重要事項説明書・同意書・運営規定を読み合わせおこない、こまめな説明にて理解・同意が出来るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、毎月の請求書の中に意見用紙を同封し、意見箱に投函しやすい工夫をしている。又、毎月お便りを発行し、口頭のみではなく書面での報告も心がけている。年2回の家族会の際は、食事会も開き、家族様同士の交流の場も提供している。	利用者からは、日々の関わりの中で気軽に話し合える雰囲気作りに留意し思いを聞いている。家族からは面会時や毎月の便りで利用者が楽しんでいる写真を送り、その中に必ず家族からの要望や意見を出してもらうよう用紙を添えている。家族会では食事会を兼ねての家族同士の交流の場もよい機会としている。出された意見や要望等は職員で話し合い反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングや、日頃から職員とのコミュニケーションを図り意見や提案を職員間で検討している。ノートも活用して些細な意見も反映させている。</p>	<p>管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、ミーティングや会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、その反映を図るよう心がけている。職員から意見が出ればノートに書き必要項目については、ミーティングで職員で話し合い運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤続年数や人事考課、定期的な目標設定や面談を行ない、個々の仕事に対する意欲、取り組み等を適切に評価している。有給休暇やバースデー休暇、資格や研修手当等の就業環境の配慮がなされている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を作成し、法人全体・各部署での研修や勉強会を毎月行っている。新人研修やフォローアップ研修等の個々の研修も実施している。又、各資格取得に向けた勉強会も定期的で開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修における同業者との意見交流や見学をおこない、情報を得る機会を設けサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様との事前面談で、希望や要望、困っていることなどの情報を得て、後日、本人様との面談で安心感を持ってもらうように努めている。その後、施設見学もおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との事前面談で、希望や要望を見極め、ここでの生活を安心・安全に過ごせるかしっかり話し合っている。場合によっては、他の施設等への紹介も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、入居判定会議を開催している。理事長や施設長、必要に応じて訪問看護や居宅支援事業所などの部署も参加して、法人全体で家族様のニーズに沿えるように、安心感が持てる関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心・安全はもちろん、「趣味や生きがい」も大切にし、サービス提供に努めている。掃除・洗濯・食事等を共におこない、自立支援の観点にも意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の行事や、個人レクリエーションへの参加等の声掛けを行っている。面会時には、日頃の様子を細かく報告・相談している。又、毎月お便りを発行して書面や写真での報告も行い信頼関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの眼科や美容室等へは、家族様の協力を得ながら継続行っている。故郷が遠く希望に沿えない場合は、故郷の海を思い出せるように、一緒に海岸をのんびり眺め安心できる支援や、墓参りもおこなっている。親族や知人の面会時には、閉塞感がないような環境整備に努めている。	利用者個々人に配慮した馴染みの場所や人との関係を大切にしている。親族や友人・知人の訪問を奨励し、居室を開放して継続的關係が途切れないようこころよく迎えている。家族の協力で馴染みの理美容院を利用したり、外出や墓参なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の席配置や、職員が訪室し居室内での日常会話や、毎日のレクリエーションの中で孤立がないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここでの支援・生活が難しい場合は、当法人内の各部署が生活を継続できるように検討おこなっている。退去後も面会へ伺い関係性に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望・要望はもちろんだが、言葉にならないシグナルサインや表情、仕草や行動を読み取り、心の声に耳を傾けられるように日々取り組んでいる。	日々の関わりの中で様子を観察し言葉や表情・サインなどから、見過ごすことのないように、思いや意向の把握に努めている。職員も気づきを記録し、利用者の視点に立って職員間で話し合い、利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。趣味の園芸などをしたり、その人らしい日課を一緒になって支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前前は、家族様や情報提供書、ケアマネ等から情報提供を得ている。入居後は、日々の関わりの中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握なしでは、利用者様に沿った支援ができないので、日々の記録類に目を通し、申し送りを行い、職員間での情報共有に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員と計画作成者が中心となり、介護計画を作成している。ミーティング時に課題を検討したり、家族様とも相談・検討を行っている。定期的にモニタリングを行いケアプランに反映させている。</p>	<p>本人や家族の意向を汲み取った上で、アセスメントやフェイスシートを参考に、個々に応じて、園芸などで楽しく生活できるように介護計画を作成している。レクリエーションも取り入れている。モニタリングは毎月行い、6ヶ月毎に見直している。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常生活の様子を介護経過記録・業務日誌・申し送りノート・バイタル表・水分表・排泄表といった記録にて情報の共有を行い、介護計画の見直し時の情報として生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりのニーズや要望に沿って、個別でのレクリエーションに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域住民からのボランティアを依頼している。日々の散歩でも、地域住民との挨拶や立ち話ができる関係性が築けている。地域に開かれた施設を常に意識している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様・家族様の意向により、現在はすべて当法人母体のクリニックが主治医となっている。2週間に一度の訪問診療があり、通院の身体的負担を考慮している。</p>	<p>かかりつけ医を最初で聞いて、本人や家族の意向通りに受診の支援をしている。24時間医療連携体制で緊急時の対応や専門医の医療連携もできている。2週間に1回の訪問診療など、連携をとりながら適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制にて、1週間に一度、訪問看護が健康確認を行う。その際は、職員とのカンファレンスを行い情報共有や医療面での相談、助言等を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に病院側へ情報提供をおこなっている。定期的に面会へ行き、病院関係者から情報を得ている。又、家族様への電話をこまめに行い退院後の生活の相談・検討を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>些細な心身状態の変化のたびに、家族様との相談を行っている。医療ニーズが高い時は、主治医との相談を行っている。当法人内で、利用者様を支えられるように取り組んでいる。入居判定会の際にご家族様にターミナルケアについて説明し、意向を伺っている。現在は終末期の対象者はいない。</p>	<p>入居時に重度化した場合の終末期の指針を説明している。重度化の進行とともに家族や主治医と連携をとり終末期に向け支援できるように体制を整えている。繰り返し話し合い、随時意思を確認して主治医と連携して支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に緊急時の対応を検討し、マニュアルを見直している。急変時は主治医、施設長、管理者報告、夜間はオンコール体制を行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防避難訓練を実施し、地域住民の参加もある。災害対策のマニュアルを作成、見直しを行っている。運営推進会議では、町内会長・民生委員・地域住民とで、地域での災害時の対応を検討している。</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回、消防署の指導のもと、昼夜間想定避難訓練を行っている。避難場所を隣接の2階にして避難訓練を行った。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、隣接している法人事業所との協力体制もできている。今後は自主訓練の回数を増やしたり、地域住民の協力体制の強化など災害対策を重視していく方針である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や外部研修を通して、接遇面の意識・改善をおこなっている。アットホームな信頼関係を築けても、「利用者様と職員との関係」を忘れないように日々意識している。	入居の際、利用者の尊厳を大切に個人情報の保護方針について説明している。日頃から、プライバシーを守り、自由に生活できるように信頼関係を築き、感情の変化などに注意しながら、馴れ合いにならないように、さりげない声かけや誘導をしている。研修を重ね、その人らしい権利を一番大切にしている。職員は、事例をもとに研鑽している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の心身状態を観察し、言葉のみではなくサインシグナルに気づき、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れはあるが、その日の体調や気分を把握し、入浴や食事時間等、利用者様主体で1日の流れを希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	パジャマ更衣や、外出時の洋服を選んだり、美容室で髪型を一緒に考えたりしている。メリハリのある生活を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理や盛り付けなど行っている。個人レクリエーションでは、好きな食べ物を職員と一緒に外食したりしている。	食を通じた会話やその日の体調にあわせて食事時間を調整したり、調理の下ごしらえや盛り付け・味付けなど一緒に行っている。個別的に好きな食べ物を聞いて外食をしたりして変化もつけている。栄養士の献立を中心に、利用者の嗜好に配慮した献立を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を随時行っている。塩分制限や水分制限にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・見守り・介助によって口腔内の清潔を維持している。夕食後は義歯洗浄をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンやトイレ回数を把握して、安易にオムツ等の使用は避け、できるだけトイレでの排泄が行えるように支援している。 又、排泄時は、羞恥心やプライド等の配慮も心がけている。	排泄チェック表で排泄のパターンを記録し、それぞれの習慣も把握して、さりげなくトイレ誘導をしている。羞恥心への配慮もしている。誘導や声かけの工夫でトイレでの排泄を大切にして、オムツを減らす取り組みや排泄の自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がある利用者様には、ヨーグルトや豆乳等の提供をおこなったり、主治医や看護師への報告にて排便コントロールをおこなっている。日々の散歩にて便通を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週3回の入浴日は設けているが、一人ひとりがゆっくり入浴してもらえるように心がけている。	入浴は基本的に週3回であるが、一人ひとりの希望に添った入浴ができるように支援している。入浴をいやがる利用者には、声かけなどの工夫をして柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の「適度な疲労感」を意識して、レクリエーションや散歩等をおこなっている。必要に応じて昼寝も促している。夜間不穏が強い方は、フロアでゆっくり話しながら安心して就寝できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをカルテに綴り、常に確認できるようにしている。服薬の変更時には、業務日誌等に記載し職員間での情報共有に努めている。服薬による心身状態の変化にも注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個別レクを実施している。「安心・安全」な生活の提供はもちろんだが、「趣味・生きがい」のある生活の提供を心がけている。担当職員が中心になり個人レクに生かせるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>個人レクにて、お墓参りや、馴染み深い食堂やお店へ行っている。昔を思い出しながら笑顔や会話が弾む利用者様が多い。寒い季節になると、体調管理を優先し外出機会が少なくなってしまう。</p>	<p>日常的には近隣を散歩したり、個別レクリエーション企画で、一人ひとりの楽しみごとに合わせて、木市や繁華街を散策して昔を懐かしんでいる。車椅子対応車を利用して、車椅子の利用者も外出の機会を作っている。家族の協力で墓参や外食、理・美容院にも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人様・家族様と十分話し合い、必要に応じてこちら側で金庫預かりをしている。買物同行時は、自分で支払いができるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話の自己管理をされている。家族様に協力を得て、必要に応じて電話内容の報告をお願いしている。年賀状や残暑見舞い等を家族様へ送れるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平屋建ての床暖房、木材をふんだんに使用し、吹き抜け空間を取り入れることで開放的な空間作りをしている。又、「特有の臭い」がないように常に意識している。湿度や温度管理も徹底している。季節感を取り入れた貼り絵や飾り付けをおこなっている。</p>	<p>共用の空間は吹き抜けで、天井が高く開放的な空間になっている。木造平屋建てで温かい雰囲気である。換気や採光に配慮され、湿度・温度も適度に調整されて清潔である。床暖房で風呂やトイレも広く車椅子などの利用者が窮屈な思いもなく安心して生活できる。玄関前庭の花壇には季節の花が植えてある。季節を取り入れた作品が飾られ、家庭的な雰囲気ですぐ居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席配置や利用者様同士がくつろげるソファや畳コーナーを設置している。畳コーナーにて洗濯たみを利用者様同士が自然におこなえている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地の良い空間作りの一環として、できるだけ自宅から馴染の深い家具等を持ってきて頂くように家族様の協力を得ている。</p>	<p>ベッドとダンスは備え付けである。家具やテレビ・椅子・時計・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれている。衣装棚などもあり、居心地の良い部屋になっている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>夜間トイレまでフラツキがある利用者様には、居室からトイレ間の廊下に椅子を設置し、つたい歩きができるように工夫したり、居室が分からなくなる利用者様には、大きな表札を貼ったりして、工夫をしている。</p>			

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない